

PCR検査体制の拡充を

10月後半の拡充に向け準備を進めている



小笠原 良子
(日本共産党)

議員 新型コロナウイルスへの感染が疑われる人は、身近な医療機関に相談し、受診することが基本になると厚生労働省が通達を出した。市が独自にPCR検査や抗原検査の体制を拡充する考えは。市長 PCR検査は、中央病院の感染症外来

を拡充し、上十三医師会の協力を得て、10月後半に検査能力を拡大する準備を進めています。

抗原検査は、医師や看護師等の数や体制には限界があるため、現時点では希望する人全てに検査をできる状況にはありません。

病院事務局長 検査は医療上の必要性が判断された場合に行います。

議員 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中央病院の入院患者と家族との面会が制限されているが、リモート面会を実現する考えは。

病院事務局長 他の自治体病院の対応状況を調査するなど、今後研究したいと考えます。

議員 子供たちの命と健康を守るため、小中学校の全ての教室に冷房設備を設置できるのはいつになるか。

教育長 小中学校全ての保健室と仲よし会に冷房設備を設置しました。また今年度中に、全小学校の1、2年の教室・特別支援教室・図書室、全中学校の図書室に設置する見込みです。全ての教室への設置は、財政状況を見極めながら検討していきたいと考えています。

議員 今年度の設置に係る予算額は3億円強だが、残りの全ての教室に設置する場合の費用の額は。教育部長 同程度を見込んでいます。



速やかに全教室に冷房設備の整備を



石橋 義雄
(自民公明クラブ)

議員 中央病院の経営状況は。

病院事務局長 厳しい経営が続いています。医師数、平均入院患者数、手術件数等が目標値に達していません。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりさらに厳しい経営状況になると見込まれます。今後も全職員が経営意識を共有し、現金ベースの黒字化を目標に、徐々に純損失を圧縮し、医療の質を維持しながら経営改善に取り組みでいきたいと考えています。

議員 稲生橋の架け替えの予定は。建設部長 県は老朽化

中央病院の経営状況は

厳しいが医療の質を維持しながら現金ベースの黒字化を目指す

対策として架け替えを計画しています。令和2年度は測量詳細設計、令和3年度は用地測量、令和4年度から2か年で架け替え工事を実施するとのことです。

議員 稲生橋近隣の利便性の向上策は。

建設部長 周辺の交通量が多いことから、橋の拡幅要望があることは認識しています。

議員 市長が描く十和田市の将来像は。

市長 新型コロナウイルス感染症対策、小中学校への冷房設備の設置、大手食肉業者の誘致による食肉流通拠点の整備、バス等の公共交通の拠点の整備、現代美術館・十和田湖・奥入瀬溪流の魅力向上等、多くの課題が残されています。これらに取り組むことは私の使命と考えます。



補修を重ね、設置後69年が経過した稲生橋